昭和54年11月19日開催拡大在京幹事会議事録

日　　時　：　昭和５４年１１月１９日　１０時～１２時
場　　所　：　気象庁総務部会議室
出 席 者　：　永田，下鶴，青木，城野，飯田（文部省），小野，春山，末広，渡辺
　　庶務：清水，久本，吉留，泉，小宮

冒頭，末広委員から「御岳山の火山活動について，１１月１６日，国会で説明を行ったとき，本日，本幹事会で検討される旨述べたので，推移等について見解を出してほしい」と発言があり，永田会長も了承した。

1　御岳山の火山活動について

気象庁（吉留）：観測点配置，噴煙・地震回数の推移，震源分布
青　木　委　員：震源分布，震央推移，辺長測量，温泉温度等
下　鶴　委　員：地震記象タイプ，Ｐ－Ｓ別地震回数推移
春　山　委　員：御岳山周辺の上下変動
小　野　委　員：緊急調査報告
渡　辺　委　員：東工大小坂丈予氏の調査報告代読
下　鶴　委　員：野口喜三雄氏の温泉調査代読
渡　辺　委　員：東海テレメータによる地震観測結果
下　鶴　委　員：富山大小林武彦氏の調査報告代読
　　〃　　：東大震研荒牧重雄氏の調査報告代読
気象庁（清水）：航空自衛隊ファントムによる空中赤外写真の説明

討　論

永　田　会　長：Ｂ型地震の発生が気がかりである。
青　木　委　員：８合目でもＢ型地震がみられる。
下　鶴　幹　事：火口の下にＡ型地震がみられない。
　　〃　　：荒牧氏の報告によれば，噴火は深い基盤岩を貫かれた可能性がある。噴火当日早朝に発生した微動も深い所で発生した可能性がある。
渡　辺　幹　事：小坂氏の現地調査により，やや高温の起源を予想されるガス成分比が検出された。
青　木　委　員：ただし，ガスの温度が低すぎるのですっきりしない。
小　野　委　員：小坂氏によれば，単純な水蒸気爆発ではないとのことで，これはマグマの深さがどの程度かはよくわからないが，マグマが全く関与していないとはいいきれないという意味と思う。

御岳山の火山活動についての統一見解

「噴火直後から御岳山周辺で開始した多点での地震観測によれば，王滝村付近の群発地震が御岳山に移動接近する傾向はみられない。従って，御岳山直下のやや深い所でマグマの活動を示すような地震は現在のところ発生していない。

噴煙活動も１１月８日，９日に一時高くなったが，その後は白色噴煙を２００ｍの高さに噴出する程度にとどまっている。固形噴出物の分析によれば，マグマからのものは発見されていない。

今回の噴火活動は直接マグマが関与したものとは考えられないし，現在もその兆候は発見されていない。

しかし，噴煙のガス分析によれば，単純な水蒸気爆発でなく，このまま活動が沈静化するとは，にわかに断じ難い。今後とも監視観測を続行し，地震発生状況等に変化があれば，直ちに火山情報として発表する。」

2　そ　の　他

(1)　噴火時の航空機による火山観測

永　田　会　長：噴火時にはマスコミ等もさることながら，専門家がまず見ることが本筋だと思う。

末　広　委　員：気象庁と防衛庁とのとりきめで，噴火時には依頼できるようになっている。

小　野　委　員：必要を痛感した。

城　野　幹　事：自衛隊には依頼が殺到し，取捨選択に困った。選択基準を示す必要がある。

永　田　会　長：気象庁地震課が本連絡会の事務局として交通整理的な意味合いで，窓口となってほしい。

(2)　観測体制

青　木　委　員：山頂近くでの地震観測はある程度続ける必要があるが，名大では急場はしのげるが人員その他で無理である。

末　広　委　員：活動の正体がつかめれば，あとは気象庁で引き受けるのは当然と思う。

(3)　立入規制

城　野　幹　事：田の原スキー場を使えるかどうかが地元にとって最大の関心事で，もし問題がなければ，５Kmから３Kmに短縮するよう行政指導したい。勿論，状況によっては拡大するという条件づきである。

記者会見　１２：３０～１２：５０　気象庁記者室